

## 左前大脳動脈領域の損傷により全失語を呈した症例

腰塚 洋介<sup>1)</sup> 風晴 俊之<sup>1)</sup> 杉下 守弘<sup>3)</sup> 美原 盤<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 神経内科

3) 公益財団法人脳血管研究所

左前大脳動脈領域の損傷によって軽度の失語症が生じる場合があることは広く知られている。今回、左前大脳動脈領域の損傷により全失語を呈した症例を経験し、軽度の失語症を呈した症例と比較検討したので報告する。症例1、84歳男性、右利き。失語、右片麻痺を呈し、頭部MRIにて左前大脳動脈領域の脳梗塞と診断。アルテプラーゼ静注療法を施行したが、再開通による左前大脳動脈中心枝領域（尾状核頭）からの出血があり、損傷は中大脳動脈中心枝領域（内包）までに及んだ。脳萎縮は目立たず、ウェルニッケ、頭頂葉領域に損傷はなかった。5病日にWAB失語症検査を実施し、全失語を認めた。症例2、68歳男性、右利き。失語、右片麻痺を呈し、頭部MRIにて左前大脳動脈領域の脳梗塞と診断。8病日にWAB失語症検査を実施し、軽度運動性失語を認めた。2症例の損傷部位の比較から、尾状核から内包の損傷が失語症状に影響を与えていることが示唆された。